



2020年10月30日

各 位

会 社 名 ハウス食品グループ本社株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 浦上 博史
(コード番号：2810、東証第一部)
問 合 せ 先 広報・IR部長 仲川 宜秀
(TEL. 03-5211-6039)

営業外費用および特別損失の計上ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年3月期第2四半期連結会計期間において、営業外費用（持分法による投資損失）および特別損失（減損損失）を計上いたしましたのでお知らせいたします。また、2020年5月12日に公表いたしました2021年3月期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 営業外費用（持分法による投資損失）の計上

当社の持分法適用会社でインドにおいてスパイス製品の製造販売を主な事業とする Himadri Foods Limited は、同国における新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たないなか、事業環境が悪化し、想定していた収益が見込めなくなりました。

これにより当社は、当第2四半期連結会計期間において、13億65百万円を持分法による投資損失として営業外費用に計上いたしました。

2. 特別損失（減損損失）の計上

当社は2015年12月に(株)壺番屋株式を追加取得し、当社の連結子会社といたしました。足元の事業環境をふまえ、同社を連結子会社とした際に発生したのれんおよびその他の無形固定資産の減損処理を行い、当第2四半期連結会計期間において、特別損失91億28百万円を計上いたしました。

(減損損失の内訳)

	減損額	減損後残高
のれん	8億54百万円	—
商標権	40億72百万円	195億78百万円
契約関連無形資産	42億2百万円	202億2百万円
合計	91億28百万円	397億80百万円

当該減損損失の計上は新型コロナウイルス感染症による事業環境の変化をふまえ、(株)壺番屋を連結子会社とした際に発生したのれんおよびその他の無形固定資産から創出される将来キャッシュフローを再評価した結果、当初想定に比して低下したことによるものであり、足元の同社業績に影響を及ぼすものではありません。

3. 業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	290,000	15,500	16,900	9,600	95.29
今回修正予想(B)	285,000	18,500	18,300	6,300	62.53
増減額(B－A)	△5,000	+3,000	+1,400	△3,300	-
増減率(%)	△1.7	+19.4	+8.3	△34.4	-
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	293,682	19,005	20,797	11,458	113.73

(修正の理由)

当第2四半期連結累計期間の業績については、本日公表の「2021年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症による消費行動の変化が当社連結業績にも大きく影響いたしました。外出自粛による影響から健康食品事業や外食事業が低迷する一方、家庭内食需要の増加により国内外で家庭用製品の販売が伸長し、香辛・調味加工食品事業や海外食品事業は好調に推移いたしました。加えて各事業で発生するコストが抑制されたことにより、売上高は前年同期を下回りましたものの、営業利益は前年同期を上回りました。

新型コロナウイルス感染症が社会・経済活動に与える影響は依然不透明な状況が続きます。当下半期は、特に第4四半期連結会計期間において、前年同期に発生した特需の反動を見込んでおりますが、消費行動の変化を見極め、迅速に対応するとともに、第六次中期計画の最終年度として、次期中期計画に向けた仕込みを着実に進めてまいります。

こうした業績の進捗や見通しに加え、上述のとおり営業外費用および特別損失の計上を織り込んだ結果、2021年3月期の通期連結業績は、売上高・親会社株主に帰属する当期純利益については前回予想を下回り、営業利益・経常利益については前回予想を上回ると見込んでおります。

なお、2020年5月12日に公表いたしました1株当たり配当予想(中間配当23円、期末配当23円、年間46円)に変更はございません。

(注) 本資料における上記の予想を含む記述は、発表日現在に入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績・結果は予想数値あるいは見通しと異なる場合があります。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以 上